

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームおおくにの家

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F)	ユニット名(2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症であっても尊厳を保持し、その人らしく生きていくことへの支援を重視し、ホームは家であり地域の一人として生活していく事を基本として理念や基本方針の学習を入職時、また事例検討会議で触れ学習し検討している。	認知症であっても尊厳を保持し、その人らしく生きていくことへの支援を重視し、ホームは家であり地域の一人として生活していく事を基本として理念や基本方針の学習を入職時、また事例検討会議で触れ学習し検討している。	「生涯にわたって個人として尊重され、持てる力を活用し自立した生活を支援していく。」を事業所理念とし、フロアやカウンターに掲示している。職員は入職時をもとより、毎月の事例検討会や部会開催時に理念を踏まえたケアが実践されているか検討し、内容を職員間で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し地域の一人として、日頃の野外活動含め、地域の行事には全て参加しながら交流を回り、馴染みの関係を築いている。	自治会に加入し地域の一人として、日頃の野外活動含め、地域の行事には全て参加しながら交流を回り、馴染みの関係を築いている。	自治会に加入し、会費を納め、回覧版も回ってくる。地域の夏祭り、運動会、どんど焼き、防災訓練などに参加したり、法人と自治会合同の祭りを開催している。地元の小学校に利用者が手作りの雑巾を送り、児童からはお礼の手紙等をもらう。他にも畑づくりやボランティアの受け入れを行い交流の場を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	看護・介護・小学生・中学生等の学生実習及び、研修の場として受け入れている。また、介護サポーター制度によるボランティアの受け入れ、地域のボランティアの受け入れを行い、認知症の理解や支援方法を地域の人々に発信している。	看護・介護・小学生・中学生等の学生実習及び、研修の場として受け入れている。また、介護サポーター制度によるボランティアの受け入れ、地域のボランティアの受け入れを行い、認知症の理解や支援方法を地域の人々に発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの事業内容及び、利用者の健康状態、リスク管理について報告し、意見交換を行なっている。また、自治会への協力依頼も行い、協議の上、改善されている。	グループホームの事業内容及び、利用者の健康状態、リスク管理について報告し、意見交換を行なっている。また、自治会への協力依頼も行い、協議の上、改善されている。	2か月に1回夕方方の参加し易い時間帯に開催している。利用者の健康状態、インシデント、行事報告、研修報告などを議題とし、必要に応じてパワーポイントで分かり易く説明している。会議では出席者との活発な意見交換ができています。ゴミ収集場の迷惑行為の対策として自治会の協力を得ることができ改善できた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや甲府市に運営推進会議の内容報告や事業運営について相談、あるいは地域の中で起きている問題についての相談、指導を受けている。	地域包括支援センターや甲府市に運営推進会議の内容報告や事業運営について相談、あるいは地域の中で起きている問題についての相談、指導を受けている。	運営推進会議の報告を行い、会議の中で出た課題について市や地域包括支援センターの担当者に相談している。年2回家族会が開催されるので、事業所の運営状況等について市や地域包括支援センターの担当者も交えて説明し、相互に情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルの定期的な学習会を行うことは勿論であるが、その人らしく自由に過ごしてもらい自立した生活を支援している。ホームは自由な空間であるため、夜間以外の施錠は実施していない。身体拘束は絶対しないという理念を持っている。	身体拘束マニュアルの定期的な学習会を行うことは勿論であるが、その人らしく自由に過ごしてもらい自立した生活を支援している。ホームは自由な空間であるため、夜間以外の施錠は実施していない。身体拘束は絶対しないという理念を持っている。	身体拘束防止委員会があり、年間計画に基づいて研修している。法人全体と事業所で年1回学習会を開催し、毎月チェックリストを使って各職員がチェックした内容をグラフにし、部会で評価、結果は運営推進会議や職員会議で報告し共有している。また、施設長、センター長はじめ、職員全体で言葉使い等に注意し合える関係を築いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の学習会を定期的に行っている。ホーム内は自由であり、虐待はない。	虐待防止の学習会を定期で行っている。ホーム内は自由であり、虐待はない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の学習会を行っている。現在成年後見制度を利用する対象者は居ないが、事例検討等から職員の意識は高い。	権利擁護の学習会を行っている。現在成年後見制度を利用する対象者は居ないが、事例検討等から職員の意識は高い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	症状の変化等で長期入院が必要となり、退去が必要な場合は、包括支援センターの協力を得て担当者会議等を繰り返し、利用者家族の気持ちを汲み取りながら、安定した入院生活が送れるように支援している。また、次のサービスに繋げられるまで計画作成者、ホーム長が支援している。	症状の変化等で長期入院が必要となり、退去が必要な場合は、包括支援センターの協力を得て担当者会議等を繰り返し、利用者家族の気持ちを汲み取りながら、安定した入院生活が送れるように支援している。また、次のサービスに繋げられるまで計画作成者、ホーム長が支援している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームおおくの家の

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F)	ユニット名(2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と共に作るグループホームという運営の基本のもとに、家族会を開催し、事業内容、利用者の健康状態、医療連携、リスク管理(インシデント・アクシデント)について報告、経営状態の報告し、活発な意見交換をしている。事業への家族の積極的な参加を求めている。常に利用者には毎日の献立会議や行事への意見、日常生活の中の意見を求めている。運営推進会議に地域の代表、地域包括支援センターというメンバーで話し合いがされている。	家族と共に作るグループホームという運営の基本のもとに、家族会を開催し、事業内容、利用者の健康状態、医療連携、リスク管理(インシデント・アクシデント)について報告、経営状態の報告し、活発な意見交換をしている。事業への家族の積極的な参加を求めている。常に利用者には毎日の献立会議や行事への意見、日常生活の中の意見を求めている。運営推進会議に地域の代表、地域包括支援センターというメンバーで話し合いがされている。	日々の面会時に家族と話す機会はあるが、年2回家族会を開催している。その際、利用者の健康やリスク管理、事業所の運営状況等について報告し、家族の意見や要望に応えるようにしている。また、協議した内容は毎月家族に報告している。利用者からは食事のメニューや行事の内容に対する意見を聞き、要望に応えるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回部会と別事業所との学習会を行い、業務改善および教育、事業内容、リスク管理についての話し合いをし改善に向けている。	月1回部会と別事業所との学習会を行い、業務改善および教育、事業内容、リスク管理についての話し合いをし改善に向けている。	月1回の部会やその都度ミニカンファレンスを行うことで、より良いケア方法を検討している。職員の勤務状況や処遇についての意見を聴いたり、年2回管理者や施設長とのヒアリングの機会があり、業務改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働条件に関する労働時間や休業等を含んだ就業規則の見直しを行い、職員共済会を通し職員に徹底している。計画的なベースアップやボーナスの支払いを行なっている。報奨金制度も有り、職員の頑張りにおいては年2回の表彰の機会がある。	労働条件に関する労働時間や休業等を含んだ就業規則の見直しを行い、職員共済会を通し職員に徹底している。計画的なベースアップやボーナスの支払いを行なっている。報奨金制度も有り、職員の頑張りにおいては年2回の表彰の機会がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内教育委員会が卒業1年目から3年目を対象にした初期研修(集合研修)を実施している。また、職種別やテーマ別の研修も年間を通して計画・実行している。新人から中堅までテーマを決め、年間に事例研究や調査研究等を行なっている。法人外研修も積極的に出している。	グループ内教育委員会が卒業1年目から4年目を対象にした初期研修(集合研修)を実施している。また、職種別やテーマ別の研修も年間を通して計画・実行している。新人から中堅までテーマを決め、年間に事例研究や調査研究等を行なっている。法人外研修も積極的に出している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の会議や研修に参加の際、交流を図っている。また、同業者の実習も受け入れており、知り合った職員を通し見学に行く事もある。その他、県外の質的レベルの高いグループホームへの見学や交流をしている。グループホーム内研修の講師にも招いている。	グループホーム協会の会議や研修に参加の際、交流を図っている。また、同業者の実習も受け入れており、知り合った職員を通し見学に行く事もある。その他、県外の質的レベルの高いグループホームへの見学や交流をしている。グループホーム内研修の講師にも招いている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から本人・家族との関係を大切にしている。入居前にグループホームで過ごしてもらうなど、体験を繰り返してもらっている。その中で不安や要望等を聞き、改善するようにしている。	入居前から本人・家族との関係を大切にしている。入居前にグループホームで過ごしてもらうなど、体験を繰り返してもらっている。その中で不安や要望等を聞き、改善するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から家族との関係を築くため、要望・意見・不安等を把握し解決できるように支援している。入居後は本人の状況等家族にお便りや新聞でホームの状況を報告する他に直接家族との対話を重視している。	入居前から家族との関係を築くため、要望・意見・不安等を把握し解決できるように支援している。入居後は本人の状況等家族にお便りや新聞でホームの状況を報告する他に直接家族との対話を重視している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に本人の家族から1番望んでいる事、また、職員側からみて解決が必要な事項を本人・家族・職員で話し合い、その内容を明らかにして支援していく。	入居時に本人の家族から1番望んでいる事、また、職員側からみて解決が必要な事項を本人・家族・職員で話し合い、その内容を明らかにして支援していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は家族としての役割を持っているという考えのもとに、利用者との関わりを大切にしている。季節の行事、または漬け物・料理のコツなど生活文化を利用者から学ぶ事も多い。	職員は家族としての役割を持っているという考えのもとに、利用者との関わりを大切にしている。季節の行事、または漬け物・料理のコツなど生活文化を利用者から学ぶ事も多い。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームおおくにの家

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F)	ユニット名(2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に築くグループホームとして位置づけている。家族には夏祭り、敬老会、クリスマス会、旅行を通し職員と共に入居者への心のケアに役割を置いている。最低1ヶ月に一度はグループホームへ顔を出してもらうことをお願いしている。	家族と共に築くグループホームとして位置づけている。家族には夏祭り、敬老会、クリスマス会、旅行を通し職員と共に入居者への心のケアに役割を置いている。最低1ヶ月に一度はグループホームへ顔を出してもらうことをお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の生活習慣の中で利用していた、理美容院、または、店等で出来るだけ本人の希望を聞きながら継続して利用している。本人が望む馴染みの場所など希望があれば外出支援も行っている。	入居前の生活習慣の中で利用していた、理美容院、または、店等で出来るだけ本人の希望を聞きながら継続して利用している。本人が望む馴染みの場所など希望があれば外出支援も行っている。	入居時にそれまでの生活の様子を聞き取り、利用していた理美容院や商店などを継続して利用したり、実家に行きたいなどの希望があれば家族の協力を得て、職員が付き添うことで外出の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	グループホームは個人の家であるが、日中部屋の中に閉じこもらないようリビングにおいて、手芸や歌、ゲームなど皆が共通で喜びあえるよう工夫している。また、散歩等を行うことにより、共通の話題が出され入居者が一体感を感じる場面が多い。	グループホームは個人の家であるが、日中部屋の中に閉じこもらないようリビングにおいて、手芸や歌、ゲームなど皆が共通で喜びあえるよう工夫している。また、散歩等を行うことにより、共通の話題が出され入居者が一体感を感じる場面が多い。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病気等長期入院などでやむを得ず施設が変わっても、家族の相談窓口になっている。必要に応じて、訪問し支援している。	病気等長期入院などでやむを得ず施設が変わっても、家族の相談窓口になっている。必要に応じて、訪問し支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	起床、食事、入浴、散歩などその日の本人の希望を尊重した支援をしている。職員は利用者の家族としての役割の位置づけがあり、日常的に何でも話せる関係がある。	起床、食事、入浴、散歩などその日の本人の希望を尊重した支援をしている。職員は利用者の家族としての役割の位置づけがあり、日常的に何でも話せる関係がある。	職員は担当制になっており、日頃から食事、買い物、外出など個々の方の希望を尊重した支援を行い、ケアプランにも反映している。自ら意思表示が困難な方には、日常の様子や表情から読み取ったり、家族の意向から把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や生活習慣など本人・家族・ケアマネージャーからの情報を聞き取りながら本人の心身の状況を把握し、共同生活に向けて職員がどの支援に重点を置くか把握する。	入居時に生活歴や生活習慣など本人・家族・ケアマネージャーからの情報を聞き取りながら本人の心身の状況を把握し、共同生活に向けて職員がどの支援に重点を置くか把握する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時に情報把握することは勿論であるが、入居後も今までの生活を回想してもらい、その中から個々の生活習慣や心身の状態を把握する。また、生活の中で有する能力を把握し、支援の内容を変化させていく。	入居時に情報把握することは勿論であるが、入居後も今までの生活を回想してもらい、その中から個々の生活習慣や心身の状態を把握する。また、生活の中で有する能力を把握し、支援の内容を変化させていく。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活歴を把握し、本人と家族の意向を尊重した計画書を作成する。作成にあたっては、家族が参加できる日にあわせ、職員・本人・家族と連携した計画書を作成している。計画作成は計画作成担当者が作成し、モニタリングは担当職員が作成している。	生活歴を把握し、本人と家族の意向を尊重した計画書を作成する。作成にあたっては、家族が参加できる日にあわせ、職員・本人・家族と連携した計画書を作成している。計画作成は計画作成担当者が作成し、モニタリングは担当職員が作成している。	入居時に生活歴を把握し、本人と家族の意向を反映した介護計画を作成している。職員は、介護計画に沿ったケアがされているか毎月モニタリングし、担当者会議で検討している。6か月毎に計画をモニタリングし、変更ある時は家族や医師なども交えてケア会議を実施し検討、修正をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた毎日のケアの内容や入居者の個々の状況についてカルテへの記録を行なっている。また、毎日短時間のミーティングを行い、ケアの統一を図っている。	介護計画に基づいた毎日のケアの内容や入居者の個々の状況についてカルテへの記録を行なっている。また、毎日短時間のミーティングを行い、ケアの統一を図っている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームおおくにの家

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価		
			ユニット名(1F)	ユニット名(2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々のケアの中で変化する入居者の心身の状況や入居者を取り巻く家族の変化等が起きた場合、職員間のケアカンファレンスや担当者会議を開き、支援の内容を変化させていくよう努力している。また、その情報も職員間で必ず共有できるようにしている。	日々のケアの中で変化する入居者の心身の状況や入居者を取り巻く家族の変化等が起きた場合、職員間のケアカンファレンスや担当者会議を開き、支援の内容を変化させていくよう努力している。また、その情報も職員間で必ず共有できるようにしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	甲府市からの広報や自治会の回覧板等を皆で目を通し、必要な情報を入手しグループホーム内に取り入れる。その中で行事などへの参加を行なっている。	甲府市からの広報や自治会の回覧板等を皆で目を通し、必要な情報を入手しグループホーム内に取り入れる。その中で行事などへの参加を行なっている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々にかかりつけ医を持ち、家族が受診介助をすることが基本であるが、家族に代わり職員が同行することもある。受診内容は情報ファイルにて全職員が把握できるようにしてある。受診の際には日々の生活状況が主治医に伝わるよう情報提供書を持参することもある。また、急変時には必ず主治医の指示を仰いでいる。	個々にかかりつけ医を持ち、家族が受診介助をすることが基本であるが、家族に代わり職員が同行することもある。受診内容は情報ファイルにて全職員が把握できるようにしてある。受診の際には日々の生活状況が主治医に伝わるよう情報提供書を持参することもある。また、急変時には必ず主治医の指示を仰いでいる。	月2回系列の病院が定期往診し、個々に皮膚科、歯科、整形外科、眼科などの専門外来は家族の付き添いで受診しているが、都合により職員が同行することもある。受診時は情報提供書を持参し主治医に日常の様子を伝えられている。受診内容は情報ファイルにより全職員が把握している。利用者全員が協力医の往診や週1回訪問看護による健康チェックを受けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所に配置されている看護師と連携契約をしている訪問看護ステーションの看護師が健康観察している。介護職員は日常的な入居者の状況を報告し、支援困難なこと、健康状態等報告・相談している。また、受診の折には必要に応じて医師への報告をしてもらっている。	当事業所に配置されている看護師と連携契約をしている訪問看護ステーションの看護師が健康観察している。介護職員は日常的な入居者の状況を報告し、支援困難なこと、健康状態等報告・相談している。また、受診の折には必要に応じて医師への報告をしてもらっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院の際には、入居者の情報をまとめ介護サマリーを病院に出している。また、退院時には退院前カンファレンスに看護師が出席し、退院後の生活状況の諸注意を把握し、職員に指導している。	入居者が入院の際には、入居者の情報をまとめ介護サマリーを病院に出している。また、退院時には退院前カンファレンスに看護師が出席し、退院後の生活状況の諸注意を把握し、職員に指導している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	個々の利用者が高齢であり、何らかの疾病を持っているため、症状の変化が起きた時の希望等を家族から聞いている。基本的にはグループホームで最後を看取るという事が目標であるが、家族の希望も聞いている。看取りの指針を作成して有り、かかりつけ医や訪問看護ステーションとの連携も整っている。	個々の利用者が高齢であり、何らかの疾病を持っているため、症状の変化が起きた時の希望等を家族から聞いている。基本的にはグループホームで最後を看取るという事が目標であるが、家族の希望も聞いている。看取りの指針を作成して有り、かかりつけ医や訪問看護ステーションとの連携も整っている。	入居時に利用者と家族から重度化や看取りの希望について聞き取り、事業所の方針や体制を説明している。利用者のADLの低下や持病の悪化などにより症状が変化した場合には、主治医や家族に相談し、方向性を検討している。看取りの指針が作成してあり、かかりつけ医や訪問看護ステーションとの連携を行い、職員も看取りの研修により体制を整えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医及び看護師に連絡すると共に、緊急時の緊急マニュアルに沿った処置を行う。また、応急手当の方法、初期対応の訓練等は定期的に学習会を重ねている。消防署による救命救急の指導も受けている。	主治医及び看護師に連絡すると共に、緊急時の緊急マニュアルに沿った処置を行う。また、応急手当の方法、初期対応の訓練等は定期的に学習会を重ねている。消防署による救命救急の指導も受けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回訓練を実施している。避難場所までの避難誘導訓練をしている。簡易トイレ・米・水・食料品・生活必需品の備蓄もしている。	年2回訓練を実施している。避難場所までの避難誘導訓練をしている。簡易トイレ・米・水・食料品・生活必需品の備蓄もしている。	法人全体では、年1回消防署の立ち会いのもとに防災訓練を実施している。事業所としては、年2回防災マニュアルに基づいて、火災や水害を想定した避難訓練を実施している。建物の2階や避難場所への避難誘導、職員の参集訓練も実施している。災害時のヘルメット等の備品や食品の備蓄もある。	災害が多様化する中、全職員が昼夜を問わず不安なくスムーズな避難誘導をする為に、訓練経験を積み重ねる体制の強化や地元の消防団など地域との連携や協力が得られるよう、実状をふまえた災害訓練ができることを期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわない言葉かけや対応をしている	個人情報保護法に関する学習会を行っている。又、職員は学習に基づいたケアの実践に努めている。カルテはみたらしくにしまう、申し送り時の声のトーンなどに気をつけ、個人が傷ついてしまう事がないように心掛けている。利用者個人の誇りやプライバシーを損なわれないような対応の徹底を図っている。	個人情報保護法に関する学習会を行っている。又、職員は学習に基づいたケアの実践に努めている。カルテはみたらしくにしまう、申し送り時の声のトーンなどに気をつけ、個人が傷ついてしまう事がないように心掛けている。利用者個人の誇りやプライバシーを損なわれないような対応の徹底を図っている。	個人情報保護法に関する職員学習会を実施するとともに、書類等の管理や保管、引き継ぎ時の声のトーンにも十分配慮している。また、入室時のノックや声かけ、トイレ誘導、同性介護、適切な言葉づかい等に配慮し、利用者を尊重したケアを実践している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームおおくにの家

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F)	ユニット名(2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の主体は利用者であり、自己決定権を重視している。	生活の主体は利用者であり、自己決定権を重視している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	生活をルールやスケジュールで管理しない。個人のタイムカーブでの生活を重視する。生活の場は家であるホームで在宅生活と変わりなく普通の暮らしをしている。	生活をルールやスケジュールで管理しない。個人のタイムカーブでの生活を重視する。生活の場は家であるホームで在宅生活と変わりなく普通の暮らしをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の外出の機会が多い為、身だしなみも気をつけている。起床時に職員と一緒に洋服選びをしている。洗面所では愛用のクリームや口紅をお渡ししている。	個々の外出の機会が多い為、身だしなみも気をつけている。起床時に職員と一緒に洋服選びをしている。洗面所では愛用のクリームや口紅をお渡ししている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の意見を反映した献立を考えている。また、入居者が買い物に行くときに嗜好品も購入し、皆で食べている。	入居者の意見を反映した献立を考えている。また、入居者が買い物に行くときに嗜好品も購入し、皆で食べている。	法人内で調理された食事を各ユニットで配膳している。盛り付けや下膳は利用者と一緒にし、誕生日の方の好物、巻き寿司、焼きそば等希望のメニューにしたり、おやつ作りもしている。年3回行うバス旅行をはじめ、外出の機会には外食したり、買い物で嗜好品を買うことも楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々が摂取する食事や水分量、毎日チェックしている。食事量の少ない場合は個人にあわせ、1日の量をバランスよく摂取出来る様にしている。献立に偏りがある場合は、職員がアドバイスしている。定期的に看護師へ報告している。	個々が摂取する食事や水分量、毎日チェックしている。食事量の少ない場合は個人にあわせ、2日の量をバランスよく摂取出来る様にしている。献立に偏りがある場合は、職員がアドバイスしている。定期的に看護師へ報告している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員が口腔ケアを行えるように支援している。十分な口腔ケアが行えない場合は、職員が助言し、支援している。	毎食後、全員が口腔ケアを行えるように支援している。十分な口腔ケアが行えない場合は、職員が助言し、支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンをチェックし、トイレへの誘導等を行うが、個人の生活の為、強引には行わず、自然にトイレに誘導出来る様に支援している。	個々の排泄パターンをチェックし、トイレへの誘導等を行うが、個人の生活の為、強引には行わず、自然にトイレに誘導出来る様に支援している。	排泄チェック表があり、個々の排泄リズムを把握している。半数の方が布の下着で、半数の方はリハビリパンツを使用している。トイレ誘導の際は強引にすることがないように、利用者の様子を見ながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として、食物繊維の多い食事の摂取、朝一番の飲水、ヨーグルト摂取、散歩等で排便コントロールしている。	便秘の予防として、食物繊維の多い食事の摂取、朝一番の飲水、ヨーグルト摂取、散歩等で排便コントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	生活をルールやスケジュールで管理しない個人の家という観点から個々が入浴したい時間に入浴出来るよう支援している。	生活をルールやスケジュールで管理しない個人の家という観点から個々が入浴したい時間に入浴出来るよう支援している。	毎日入浴できる体制になっている。時間に制限はないが午前中に入る方が多い。シャンプー等の入浴用品は事業所で用意しているが、利用者の希望があれば好みの物を使用している。入浴を拒否する方もいるが、気持ちに寄り添いながら対応している。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームおおくにの家

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F)	ユニット名(2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活が昼夜逆転しないように、また、個人の家に閉じこもらないよう、日常生活に必要な作業を基本的には見守りの中で入居者自身が行なえるようにしている。生活療法的ケアにより睡眠時間を確保する事が出来る。	生活が昼夜逆転しないように、また、個人の家に閉じこもらないよう、日常生活に必要な作業を基本的には見守りの中で入居者自身が行なえるようにしている。生活療法的ケアにより睡眠時間を確保する事が出来る。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個々の服薬については、目的・用法・用量を職員全体で徹底している。また、看護師や薬剤師への相談も行っている。	入居者個々の服薬については、目的・用法・用量を職員全体で徹底している。また、看護師や薬剤師への相談も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的な生活は明るい生活を目指している。事業計画の中に季節の行事に取り組み、旅行や秋祭り、花火大会へ行ったり、大きな行事も行い、昔を回想し喜びを味わっている。	日常的な生活は明るい生活を目指している。事業計画の中に季節の行事に取り組み、旅行や秋祭り、花火大会へ行ったり、大きな行事も行い、昔を回想し喜びを味わっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの周囲の散歩をしたり、理美容院への外出や必要なものの買い物に出掛けている。帰宅願望のある場合は、家に出掛けたり、個々の入居者の要望を重視し生活している。	ホームの周囲の散歩をしたり、理美容院への外出や必要なものの買い物に出掛けている。帰宅願望のある場合は、家に出掛けたり、個々の入居者の要望を重視し生活している。	事業所周辺の散歩やテラスでお茶を飲んで外気浴を楽しんでいる。また、理美容院や買い物、家の様子を見に行く等利用者の希望に沿った外出をしている。散歩の際には地域の方とも言葉を交わしたり、法人のデイサービスを利用している方との交流を楽しむ機会もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の財布を保有しており、外出時には個々が欲しい物を購入できるようにしている。	個人の財布を保有しており、外出時には個々が欲しい物を購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	活動に絵手紙作りを取り入れ、要望があればその絵手紙を家族に送っている。家族で面会が来れない方は電話を下さり、それを繋いでいる。また、家族への電話連絡も希望がある時は適宜行なっている。	活動に絵手紙作りを取り入れ、要望があればその絵手紙を家族に送っている。家族で面会が来れない方は電話を下さり、それを繋いでいる。また、家族への電話連絡も希望がある時は適宜行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室や食堂にはテーブルやソファ、テレビ、季節の花が置かれ、対面式の台所も家庭的で落ち着いた雰囲気作りの配慮がある中、利用者は自由に過ごしている。トイレ、フロム違和感はない。	居室や食堂にはテーブルやソファ、テレビ、季節の花が置かれ、対面式の台所も家庭的で落ち着いた雰囲気作りの配慮がある中、利用者は自由に過ごしている。トイレ、フロム違和感はない。	広々としたホールで移動もスムーズにできる。ひな祭りの共同制作が壁面に飾られているが、利用者の「小学校のようだ」という意見もあり、過剰な装飾はしないようにしている。食後はBGMが流れ、ゆったりとした雰囲気が感じられる。週2~3回、法人が雇用している担当者が清掃しているので廊下やホール、トイレ等は明るく清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにおいては個々の好みがあり、そこで過ごす事が多い。また、共通の作業や楽しみ等を行うため、利用者同士でよく笑いながら過ごしている時間が長い。	リビングにおいては個々の好みがあり、そこで過ごす事が多い。また、共通の作業や楽しみ等を行うため、利用者同士でよく笑いながら過ごしている時間が長い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具が持ち込まれ、テレビ・家族の写真等がおかれている。時計・暦のほか、自作の絵や短歌も飾られ、その人らしく落ち着いて過ごせる居室になっている。また、ベッドについてはご本人の身体機能に合わせて福祉用具を使用する等、自立支援に努めている。	馴染みの家具が持ち込まれ、テレビ・家族の写真等がおかれている。時計・暦のほか、自作の絵や短歌も飾られ、その人らしく落ち着いて過ごせる居室になっている。また、ベッドについてはご本人の身体機能に合わせて福祉用具を使用する等、自立支援に努めている。	居室にはテレビ、ベッド、エアコン、ライティング屏がついたチェスト、カーテン、クローゼット、洗面台が備えてある。ユニットごとにトイレ付の居室や夫婦での利用が可能な特別仕様の居室もある。ペランダは陽当たりが良く外気浴もできる。利用者のそれまでの生活に配慮し、仏壇、遺影、家族写真、作品等が飾られ安らげる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活のあらゆる場面で「自立」を目指し、生活障害は職員が協働します。人の暮らしにはリスクが付き物であるため、安全確保はするが、過度な行動制限はしない。	生活のあらゆる場面で「自立」を目指し、生活障害は職員が協働します。人の暮らしにはリスクが付き物であるため、安全確保はするが、過度な行動制限はしない。		